

環境保全と自然共生社会の構築に向けた取り組み

排出ガス低減や化学物質管理など環境保全に努めています。現在、全世界では約10万種類の化学物質が製造・販売されていると言われ、近年では各企業が使用する化学物質の危険性を評価し、適切な管理のもとで使用するという考え方が主流です。企業には、「使用している化学物質の把握とリスク」「評価、リスクに対する適切な対応」「行政や社会への情報提供」が求められています。トヨタはPRTR法のもと、工場からの化学物質の排出を継続的に削減。併せてサプライチェーンの方々と協力し、製品に含有する環境負荷物質の削減に取り組んでいます。また、自然保護や生物多様性の重要性を認識し、自動車事業や社会課題への貢献等において、自然共生社会の構築に取り組んでいます。

開発・設計

都市大気環境改善に資する排出ガス低減

国内低排出ガス車認定制度適合車の推移

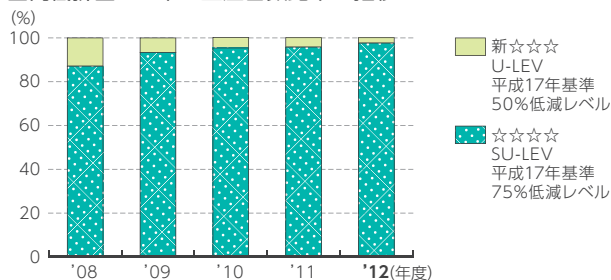
国土交通省「低排出ガス車認定制度」の超-低排出ガスレベル(U-LEV)以上の2012年度の生産台数比率は、ほぼ100%を達成しています。

平成17年基準低排出ガス車生産台数比率(2012年度)

区分	低減レベル	生産台数比率
新☆☆☆ U-LEV	平成17年基準排出ガス 50%低減レベル	2.3%(17)
☆☆☆☆ SU-LEV	平成17年基準排出ガス 75%低減レベル	97.4%(139)

()内は型式数

国内低排出ガス車の生産台数比率の推移



2012年度 国内新型・モデルチェンジ低排出ガス車認定制度適合車

低排出ガスレベル	☆☆☆☆ SU-LEV		☆☆☆ U-LEV
	車種名	型式数	型式数
	ピクシスエボック	2	0
	カローラアクシオ	3	0
	カローラフィールダー	3	0
	スペイド	3	0
	ポルテ	3	0
	オーリス	3	0
	クラウン	4	0
	計	21	0

開発・設計

製品含有化学物質の管理充実

環境負荷4物質の対応

鉛、水銀、カドミウム、六価クロムの環境負荷4物質について、国内の全生産事業体では2006年に全廃、海外主要工場でも2007年末まで概ね全廃しています。国連では2013年10月に、2020年以降水銀を使った製品の製造・輸出入を原則禁止する水俣条約(水銀条約)が採択される予定ですが、自動車についてはすでに対応済みです。

環境負荷4物質の対応状況

環境負荷4物質	国内全生産事業体	海外主要工場
鉛 水銀 カドミウム 六価クロム	2006年8月に全廃*	2007年末時点で概ね全廃*

*欧州ELV指令の適用除外用途を除く

[REACH]をはじめとする

世界の化学物質規制への確実な対応

2000年代に入り、欧州のELV*1指令やREACH*2規制をはじめ、世界各国で化学物質への規制が強化されています。このような化学物質の規制では、企業に対して化学物質の含有情報収集と、サプライチェーンの管理を求めています。こうした国際的な化学物質規制を受け、トヨタではサプライヤーと協力のうえ化学物質管理の仕組みを構築、運営しています。2012年度は、地域統轄会社(欧州、北米、南米、中国、アジア、南アなど)において、グリーン調達ガイドラインの改訂、およびサプライヤー向けの説明会を実施し、化学物質管理の仕組みをグローバルに展開しました。



アジア版環境負荷物質ガイドライン

*1 ELV(End of Life Vehicles)

*2 REACH(Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals)

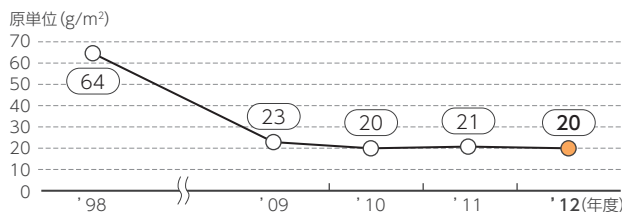
生産・物流

生産活動における環境負荷物質の低減

ボデー塗装のVOC*排出量は20g/m²

2012年度は、前年度に引き続き洗浄シンナーの使用量削減・回収率の向上、水性用洗浄シンナーの純水化などの取り組みを実施しました。全ボデー塗装ラインVOC排出量は、面積当たり20g/m²となりました。

TMC ボデー塗装のVOC排出量(全ライン平均)推移



*VOC (Volatile Organic Compounds) : 揮発性有機化合物

社会との連携

生物多様性への取り組み

トヨタ生物多様性ガイドラインに沿って取り組みを推進

生物多様性は気候変動と並んで、最も重要な地球規模の環境課題と言われ、世界規模で取り組みが進められています。2012年6月には、ブラジルのリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」、10月にはインドのハイデラバードで、「生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)」と、2つの重要国際会議が開催され、生物多様性への関心が高まりました。

2012年度の進捗

・情報開示と関係者とのコミュニケーション強化を重点的に取り組み
 ・2012年12月に開催された「エコ・プロダクツ展」の当社ブース内で「トヨタの森」「トヨタ白川郷自然学校」の担当者から、合計11回、約200名の来場者の方に、環境教育プログラム等を紹介。

・2013年3月、日本環境協会の「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に協賛。「トヨタ白川郷自然学校」の担当者が自然体験プログラムを説明。

・2013年5月、「トヨタ環境活動助成プログラム」の活動成果報告会 & 交流会を初めて実施。選考委員

から、「2014年に日本で開催されるESD(国連持続可能な開発のための教育)最終年会合などで、皆さんのプロジェクトが、情報発信されることを期待します」等の言葉をいただきました。



「こどもエコクラブ全国フェスティバル」でトヨタ白川郷自然学校の担当者が説明

トヨタの主要な生物多様性取り組み事例

区分	取組項目	具体的な実施事項等
技術による貢献	温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな燃費向上 生産・物流活動におけるCO₂低減
	大気環境問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 排出ガス低減 VOC排出量の低減
	資源循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル設計の推進 リサイクル材の使用拡大
	工場の森づくり	<ul style="list-style-type: none"> その土地の潜在自然植生を国内外工場で植樹
	森林再生	<ul style="list-style-type: none"> 間伐による下層植生の回復(三重県)
	自然と共存し地域と調和した新研究開発施設の検討	<ul style="list-style-type: none"> 希少動植物の生息・生育環境の保全 谷津田周辺の環境改善 里山林の維持管理
社会との連携・協力	人材育成&希少種保護	<ul style="list-style-type: none"> 白川郷自然学校やトヨタの森での自然環境教育
	グローバル植林	<ul style="list-style-type: none"> 自生種を用いた植林(フィリピン)
	トヨタ環境活動助成プログラム	<ul style="list-style-type: none"> テーマを生物多様性と地球温暖化に絞り支援
情報開示	報告書&ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 「地球環境に寄り添って」やホームページでの取り組み紹介
	関係者とのコミュニケーション強化	<ul style="list-style-type: none"> 「エコ・プロダクツ展」で環境教育プログラム等を紹介 「こどもエコクラブ全国フェスティバル」で自然体験プログラムを説明
	新研究開発施設の検討内容	<ul style="list-style-type: none"> 「新研究開発施設の事業概要と環境保全の取り組み」を2012年10月に公表

📖 新研究開発施設の詳細はP06~07をご覧ください。

社会との連携

自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進

環境教育の普及・啓発に努めた結果、

来校者累計12万人を突破「トヨタ白川郷自然学校」

世界遺産白川郷にあるトヨタ白川郷自然学校は、環境教育普及を目的に2005年4月に開校。白川村・環境NGOと連携し、運営を行っています。自然や地域との共生を大切に、地域に根ざした環境プログラムを充実させ、広く展開しています。2012年度は、白川郷の遺産や伝統文化を守る古道復元・茅場整備を実施のほか、Facebookの新設やメールマガジン『結いめ〜』の発行(約1万部)を通じ、学校の理念や活動状況を広く発信するなど、環境教育の普及・啓発に努めました。こうした活動の結果、2012年度は1万3千人のお客様に宿泊いただき、来校者は累計12万人を超えました。特にアジアを中心とする海外からの来校者が近年増加傾向にあり、多くのお客様に「雪の森歩き」などの環境プログラムを体験していただきました。

宿泊客数

() 内は海外からのお客様

2011年度	1万3,190人(282人)
2012年度	1万3,406人(811人)

里山再生で環境を学ぶ「トヨタの森」

豊田市内の社有林を、かつて人々の暮らしとともにあった「里山」として整備するとともに、自然体験学習等のフィールドとして活用しています。

「トヨタの森」は1997年に一般公開を始め、ファミリー向けの森あそびイベントも開催するほか、2001年より地域の小学生を対象に自然ふれあい体験プログラムを実施し、現在では年間およそ7,000人の児童が参加しています。

こうした活動により、2011年には(財)都市緑化基金による「社会・環境貢献緑地評価システム」の最高位である「スパラティブ・ステージ」に認定され、企業緑地として高い評価を獲得しています。

2012年度は、「森の整備」「環境教育プログラムの充実」「ムササビの生態系」の3つのテーマを中心に活動を進めました。



インタープリター(人と自然をつなぐ案内人)が里山の魅力や役割を伝えます

VOICE 参加者の声(イベント参加者へのアンケートから)

- ・普段体験できないことばかりで楽しかった
- ・森を楽しむスタートとして、良い体験ができた
- ・目を閉じると感覚が変わり、いつもいかに視覚に頼っているか実感した
- ・寒くても鳥がさえずっていたり日光が温かいことを、五感を通して感じられた
- ・街中では感じない、森の匂いや空気を感じた
- ・森には無駄なものはないと聞いて、森や命の大切さを再認識した

2012年度来訪者数 **1万2,101人**
 累計来訪者数 **11万3,004人**

「AQUA SOCIAL FES!!」が2012年度のグッドデザイン賞受賞

2012年11月の「GOOD DESIGN AWARD」で、「AQUA SOCIAL FES!!」の活動が、「サステナブルデザイン賞」(経済産業大臣賞)を受賞しました。また、グッドデザイン・ベスト100にも選ばれました。

「AQUA=水というイメージの拡張」によって、社会貢献活動と広告が一体になっているこのプロジェクトは、商品の購入の有無にかかわらず参加可能な『共成長マーケティング』を採用しています。「確実につく広告費を社会に還元できれば、サステナブルな社会を担う一助となる」という点を高く評価いただきました。

トヨタ環境活動助成プログラム ケニアの環境保全活動

「トヨタ環境活動助成プログラム」では、NPO法人「道普請人」が行うプロジェクト、「ケニア五大水源地のチェランガニ山系の森林再生への草の根農民からのアプローチ」への助成を行いました。このプロジェクトは、ケニア西部の山間地において、農民グループを苗木生産業者とし水源になっている天然林を再生させるとともに、「土のう」を使ったテラシング(段々畑化)技術を習得させることで農地の崩壊、表土の流出を防ぎ、環境と調和した安定的な農業が営めるようにするものです。

雨季に泥濘化していた道も「土のう」で改修し通年通行性を確保、収穫した農作物や苗木も安定的に市場に運べるようになりました。このプロジェクトをきっかけに、今まで小規模で樹木苗の生産を行っていた農民グループがまとまり、組織が拡大しました。今後はさらに、年間10万本の樹木苗を安定的に販売する体制を目指し、自立した組織運営を目指します。

さらに薪や家畜飼料を自給することで山系への環境負荷軽減、植林による水源保全などの活動を展開する予定です。



雨季に泥濘化していた道



「土のう」で改修された道



サンバラットグループ(低地)での樹木苗生産



テラシングトレーニングの実施



村で手に入る素材を使って設置された樹木苗床



農民グループが自主的に開催したアンソエーション結成のためのミーティングの様子

これまでの助成実績

活動対象地域	アジア・太平洋	北米・中南米	アフリカ	欧州	日本	その他	合計
2012年度	8	1	0	0	10	0	19
累計*	77	19	22	7	107	1	233

* 2000~2012年度